第 26 回私たちの墓地を守る会定期総会 質疑 応答

議長：ご質問並びにご意見等を頂戴したいと思います。ご意見、ご発言のある方はまず挙手をお願いいたします。ご使用の墓地、横浜第一霊園、第二霊園、三浦公園墓地などの区別を言っていただいて、できればお名前も言っていただいてご発言をいただければと思います。

なお、大勢の方が質問される可能性もありますので、原則ご質問はお1人さまにつき1回1問ということにさせていただいて、簡潔にまとめていただくよう、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、ご発言並びにご意見がおありでしたら挙手をよろしくお願ひしたいと思います。特にいらっしゃいませんか。では、今、お手元にマイクをお持ちしますので少々お待ちください。よろしくお願ひいたします。

seo：三浦海岸公園墓地の seo です。私は詳しいことは分からないのですが、今度は一般法人の何か引き継ぐわけですよ。今度、新契約を結んだら、年次管理料を払わない方も強制ではないとおっしゃっていましたよね。しつこく年次管理料をお支払いいただくように催促をするものの、特にデメリットはないというお話ですが、そうした場合、払わない者勝ちではないかということになる気がするのです。ある程度デメリットはないといっても、払う方と払わない方に多少は差があっても当然なのではないでしょうか。

議長：今の件、新法人になってからの新契約に基づく会費の件ということですが、小花先生のほうからいいですか。

小花：ちょっと補足させていただきますが、現時点で年次管理料を払っている方は当然そのままその契約が生きてきますので、新法人に引き継がれても年次管理料を払っていかなければいけません。新法人になったときに、仮に新法人との間で新契約を結んだら年次管理料を払っていかなければいけません。新契約を結んだ後に年次管理料を払うかどうかは自由になるわけではありません。既に今まで永代管理料を払っている方で、新法人と契約を結ばないで従前の契約のままの方については、新法人と契約を結ぶかどうかは自由であるというお話をさせていただいたので、その点は誤解のないようにしていただきたいと思っております。

新契約を結ぶかどうかというのはあくまでも自由です。自分は永代管理料を払ったので、その契約は生きてくるはずだということで、そのまま年次管理料を払わないという選択をするかどうかはその方の自由ですし、権利としてはそういった権利はあります。しかし墓地の再生という観点からいうと、今後の経営の必要性において、状況を見て新契約を結んで年次管理料を払っていったほうがいいのではないかと思います。そういった選択をすること自体はその方々次第なので、私たちの立場でこっちにしなさいと強制することはないと思います。そういった説明で大丈夫でしょうか。質問と合っていますか。よろしいでしょうか。

seo : 言葉としては分かります。

高森 : 多分おっしゃるところは、いわゆる永代管理料を払っている方は、特に権利にデメリットがないのだから払わなくてもいいのではないかと、そうすると管理料をちゃんと真面目に払っている人からすると、とても不公平ではないのかというお話だろうと思います。それはある意味では、おっしゃるとおりだと思います。ただご理解をしていただきたいのですが、皆さんもお分かりのとおり、新しい契約であれば、新法人から管理などをやっていかなければいけないわけです。今は必要最低限のことを行っているだけなのです。実際三浦は新しいからまだいいのですが、横浜霊園はトイレもまだ汚いし、いろんな道路にしても直らないところがたくさんあります。でもそれは必ずお金が要るものなのです。そうすると誰が管理をやるかと、永代管理料は、もう倒産してしまって全くないわけですから、新しい法人がやらなければいけません。それは何でやるかといえば、皆さまからの管理料でやっていかなければならない、儲けというものがあるわけではありませんし、しかも公益法人ですから基本的には儲けてはいけないわけです。そんなことはできないわけです。そうすると結局、納得されるかどうかということになるのです。

ただそれを新法人が強制するのは話が違うでしょう。当時お金を払った方、例えば昔だったら5万円、10万円払えばその金利が大体10%ぐらい付いていて、5,000円、1万円などという金利が入ったから管理できたわけです。ただ、時代がどんどん変わってこういう金利も変わるということは皆さんもよくお分かり頂けると思いますが、今の時点で考えればそれは成り立たないものなのです。でもそういう契約をしているわけですから、権利としては確かにありますけれどもということ。だから顧問もおっしゃったとおり、法律的には新法人が、絶対に払わなければ駄目だ、そうしなければあなたはお墓を使う権利はないということもできません。ただ、お墓をこれからきれいにしていこう、いろんな危険箇所などをやっていこうとなるとお金が必要になるのです。

だからちゃんと新法人が、こういう理由があります、これからはこういうこともやっていきます、良くしていきます、だからご協力というかご納得いただけませんか、新しい契約をしてもらえませんか、管理料を支払ってもらえませんか、そういう話になると思うのです。

私たちの守る会も両方の方がいらっしゃいます。私は年次管理料をできれば払いたくないです。ただ、大変個人的に言うとお金が必要だということからすれば、きちんとやってくれば、今度新しい法人になりますので、払ってもいいかと思っています。やっぱりどうしても今は嫌だという方は、今は確かに払っている人と払っていない人の不公平感、でもそれは個々の形の問題です。それから新法人がそういう方にもしっかりと理由を話してご納得いただける説明をする、それは新法人の役割、務めではないかと思っています。これは多少オーバー気味の答えかもしれませんが。失礼いたします。

黒澤 : 大事な質問なので、少し私の方からも説明します。今、清算人からわれわれが報告を受けているところでいくと、大体ここ4、5年の数字で見ると、いろんな収入、今、横

浜（01:06:35）で大体2億6,000万円から7,000万円ぐらい毎年入ってきています。見ていると、大体2億円ぐらい出ていきます。7,000万円ぐらいがその年のちょっと余裕がある感じです。ただ、今、違反箇所や危険箇所にも何も手当てできていないので、その7,000万円だけでそういった工事ができるかというのが現状になっています。プラス、今は管理がちゃんとできていないということが皆さんの実感としてあると思いますが、管理を十分にしていくなると、そこの人件費はどうなるかという話もあつたりして、結構この2億円と2億7,000万円の間の7,000万円だけで、どこまでこの後も再生がやっていけるかというのがまず数字の問題だと思います。そういう点で、清算人のほうは、もう少し資金を集めて全体を改善していきたいという方針を取っていると思います。これが数字の話です。

権利の話ですが、頂いている永代管理料の方の最初の紙を見ると永久使用料ですなどと書いてあるのです。そうすると今後一生払わなくていいのだなと皆さんは思うと思います。ただ、実際にそこから50年たつと、当時集めたお金ではもう今の管理には不足してしまうので、では数十年たつてどうしようかというのが今の状況だと思います。権利ベースでは今われわれが説明したように強制はできません。元々の権利があるはずだということにはなりません。これが出発点です。ただ、今後再生していくに当たって、必要なお金をどうやってつくるかを皆さんがどうお考えになるかというのが将来思考の話です。過去の経過と今後どうするかという2つを絡めて整理しないといけないので、皆さんの状況も含めて少し複雑な状況だったのです。守る会としては、前を向きながら、強制せず、皆さんのベースを守りながらどうやって前に進めていけるかというところを考えていきたいというまじめになるかと思っています。

seo：ありがとうございます。

議長：よろしいでしょうか。他に何かご質問はありますか。

では、前から4列目の方、今、マイクをお持ちしますので少々お待ちください。

gunji；横浜第一のぐんじ gunji と申します。

よろしくお願ひします。

これまでの役員の皆さんのご活躍というか活動に対して敬意を表します。

今のお話で、財団法人認定ですか、これが最後の大詰めのよう理解したのですが、この認定に当たっては、有識者による審議会の判断次第ということでしたので、有識者の方々のご理解を深めていただいて、早く審議しないといけないという気持ちにさせる必要があるのではないかと思います。その辺は方法が何かあるのでしょうか。例えば新聞等に取り上げてもらって、こういう問題があるのだということを深めてもらうというようなことがあったらいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

議長：今の質問については、黒澤先生あたりがよろしいですか。

黒澤：ありがとうございます。おっしゃるとおりで、やはり有識者の方々がまっさらな状態でしゃくし定規にやっちゃっては困るので、しっかり実態を知ってもらう必要はある

と思います。第一には、神奈川県が当然ありますので、事務局の方々に、清算人あるいは横浜市、横浜市から神奈川県という行政同士というのなかなか珍しい形だと思いますが、そういった形で情報を入れていただいている現状です。

守る会としても、以前一回神奈川県に会いに行ったのですが、例えばわれわれのほうで働き掛けという選択肢があります。あとは外からアピールするというやり方もあると思います。ただ、ちょっと今は様子を見ているのですが、逆に作用してはいけないと思っているのです。われわれがどういうタイミングでどうやって働き掛けをするのがよいのか、タイミングや方法を見定めながらと思っていますので、総論としては大賛成です。あとは各論としてどういう方法をどのタイミングでやるかという話かと思っています。事務局の高森さんとしてはどうですか。

高森：守る会としても、おっしゃるとおり審議会は有識者というだけであって独立していますので、ですから県も事務局として資料は提出できるけれども、直接は何も言えない関係なのです。そういう意味で、守る会として直接有識者に言う機会がなかなかないのだと思います。ただ、神奈川県にはやはり事務局には言える立場でありますので、今、黒澤先生からもお話がありましたように様子を見て、皆さまの声が反映できるようなことがあれば動きたいと考えております。以上です。

議長：よろしいでしょうか。

gunji：どうもありがとうございました。

議長：他にございますでしょうか。では一番後ろの、今、手を挙げていただいた、その隣の方、もう一つ手前の方ですね。真ん中あたりの方、どうぞ。

ueki：横浜第1霊園のuekiです。

お墓のことは非常に難しいと思います。横浜には公営の墓地もあるのでよね。公営墓地になかなか入ることができなくて、民間の墓園に親が入っていて、それを引き継いでいくのですが、やはりおぎゃーと生まれてから死ぬまでは国が守ってくれるような制度があれば一番いいなと私は日頃から思っている一人です。今回の場合は、お墓を買って永代使用料を払って、そこを家族が守るという仕組みになっていくと思うのです。今の少子社会の仕組みがそうなっていますので、そこに永代使用料を払っているわけですから、そこで賄ってもらうのが本筋だと思います。事態がこうなっている中で、永代使用というのは一つの権利だと思います。その権利を犯してまでもお墓を守っていかなければいけないという矛盾があると思うのです。そこでいろいろ考えて、うまい仕組みがあるのかなと思ったのですが、なかなか思い当たるところがありません。永代使用料を払って、お墓の周りをきれいにしてもらったり階段をきれいにしてもらったりするためのお金が必要だということになると、お金を出すから永代使用料という名目が一番いいのか、あるいはお金を持っている人に寄付してもらったほうがいいのか、いろいろ考えるのですが、おぎゃーと生まれてお墓に入るまでは、本来は国が持つべきではないかと思った一人なのです。

そこで、今の中で永代使用をどうするかとなってくると、寄付しかないと思うのです。永代使用料というのは権利ですから、その権利をもう一つ払うというのはおかしい矛盾を生むと思います。そういう矛盾が現在私どもの中にあるのではないかと私は思っています。そういう意味で、永代使用料の問題についてはもっと考えて、今後はいい方法も含めて、県や市、国に対して要求していいような気もして、そんな発言になりました。

議長：ありがとうございました。こちらは佐伯代表によろしいですか。

一般論の話になってしまいましたが、国も含めた中のご意見ということでした。何らかのコメントをしていただければと思います。

佐伯：佐伯です、ちょっと全体のご意見の趣旨を理解していないかもしれませんが、一つは、永代使用料として当初まとまったお金を支払った人たちというのは、大体昭和40年から50年代の初めの頃の方々が多いのです。その当時としては結構なお金を支払っていて、それを基にして墓地もつくって運営もしてきていたのです。当時は金利が高かったので、その金利払いの分を貯めて利息で運営をしていくという経営方針もあったかもしれません。十分それだけのものを支払ってもらうことによって、墓地の運営管理ができたはずなのです。なぜこんな状態になったかという、他のほうにお金を注ぎ込んだりした結果、財政が逼迫してきたということなので、建墓者には何の責任もなく、経営者の責任なのです。その経営者の責任を今になって負担しろというのはとんでもない話ではないかというのはそのとおりだと思いますし、永代管理料を払った人というのは、それこそ永代、ずっとそのまま管理料については払わなくていいということで、そういう権利がもちろんあったのです。

そういう中で、現状は運営が大変ですよ。でも先ほど黒澤弁護士が言ったように、6,000万から7,000万ぐらいの黒字には今はなっています。そういうことなので、運営をしていく上で、皆さん方のうち6割か7割の永代管理料の方は年次管理料に切り替えてくれとなるかという、必ずしも計算ではなりません。そうしなくても運営はしていけるのではないかということがあるわけです。それを前提として、先ほど三浦の方が言っていました、払っても払わなくてもいいかとなると、払っている人と払っていない人との間で損得のような形になるのではないかという懸念もあったのですが、そうではありません。先ほどの意見を出された方の視点は非常に貴重だと思うのですが、権利があるのにその権利を放棄して改めて払うということはやはり法治国家として許されないというか理屈に合わない話ですよ。では永代管理料を払ったけれども、さらに出しましょうかという人については、まさに寄付なのです。自分たちの墓地が少しでも良くなるように、私のほうは寄付をしてもいいですよということになればそのような形にしてもいいかと思いますが、これはあくまでも義務の履行ではなく寄付行為ということで、恩義を与えるということだけのことかと思っております。

ただ、もし全体の運営が継続性や永続性が保てない事態が計算上出てきた場合、公益法人ですから自治体の援助や国の援助というのは難しいと思いますけれども、市や県もどうい

う形で援助するか、お金のような形ではなく、何らかの形の便宜をある程度図っていくことを求めていくのも、建墓者としては管理監督者の責任としてやってもいいのではないかと僕は思います。

先ほどの質問の方からもありましたが、やはり建墓者の立場からすると、国に対しての働き掛け、特に今回は公益認定をするのが県なので、県に対してどういう働き掛けをしていくかということ、少しでも早く正常化をしてもらうことは本当に切実な要求なわけですよ。私などもそうですが、自分自身がお墓に先に入ってしまうそうです。そういうことから言うと、一日も早く公益認定を県にしてもらう、そのための何らかの働き掛けをしていかなければいけないと思っています。

一つ問題になるのは、県のほうがしゃくし定規に、管理料を払っている人と払っていない人という不公平な状態があるのは、けしからんという言い方をすることがあります。公益法人の場合において、一部に特別な利益を与えるような形で運営してはならないということをしやくし定規に言って、管理料を払っている人と払っていない人…管理料を払っていないわけではなくて、永代管理料を払っているわけですが。そういうことがあるので、下手に働き掛けて守る会がそういう宿題を負っても困るので、そのあたりは上手に県に働き掛けて、皆さんの声を要望書のような形にして、早く認定しろと働き掛けていくこともしていかなければならないかと思っております。

代表としては、権利者の皆さん方の中で対立が起きたり、不平不満などが出たりすることが一番危惧するところです。やはり今は一丸となってやっていかなければいけないという点で、先ほどの永代管理料を払っている人とそうではない人との間に不平等があるのではないかという考えは捨て去っていただきたいです。そういう状態にさせたのは経営者のほうですから、それは不平等でも何でもないと僕は思っておりますから、そこはよく認識していただければと思っています。ご意見に対しての私の意見ということで聞いてください。

議長：よろしいでしょうか。他にございますでしょうか。

では、お時間の関係で、一応最後の方ということでよろしくお願いいたします。

isizaka： (01:24:13) と申します。横浜の第二霊園です。第二霊園を見ていただくと分かると思いますが、決してきれいな状態ではなく、芝もぼうぼうとしていたり、私は永代で払っていますが、年次ということに関しては全く反対ではありません。しかし一度永代で払ったものですから、年次に切り替えるときには、最初から年次でずっと払っていらっしゃる人がいらっしゃいますが、年次で払っていらっしゃる方が単純に1万円を管理料を払っていたとしたら、今度私たちが新法人で契約するときは、やはり同じに1万円になるのでしょうか。その辺がちょっと疑問なのと、今6割が永代管理料支払い者ですよ。今おっしゃったように7,000万ぐらいは基本的にはプラスがあると言うとおかしいですけどもあるわけですよ。今回は約2万人超の建墓者がいてその約6割が今度、新しく管理費を払う形になるわけですよ。そのことに関して、同じような管理費になるのかどうか

が少し疑問です。管理費について、年次と後から入る私たちとの差は少しでもないのでしょうか。

議長：管理料について、今後の問題でしょうけれども、それぞれ状況は違うので分けたほうがいいのではないかというお話だと思います。このあたりは黒澤先生あたりがよろしいのでしょうか。

黒澤：取りあえず清算人が説明しているところでいくと、基本的には墓地管理料の金額は1平米あたり2,200円ということで、今までの属性などは関係なく一律という方針を取っています。彼らが根拠にしているのは、一律公平にということを盛んに言っているので、現状はそういう考えであるようです。

他方で守る会としては、幾つか段階を設ける、あるいは激変緩和、例えば経済的に厳しい場合にもうちょっと違う措置が取れないか、より柔軟な措置はないのかということは従前申し入れたところでは、清算人は今そういうつもりでいます。それに対して対案を何か出していけるのか、その場合は元の属性だけで管理料を分けるべきなのかなど、いろんな複雑な問題があるかもしれません。大変貴重なご意見だと思います。

一度、何年か前に管理料を年次にするからという文書を頂いたことがあるのです。それで横浜霊園に電話したときに、事務局長さんか誰かが、もう30年以上無料というのはおかしいですが、永代で使ったのだから元は取れたでしょうという言い方をされたのです。だからみんなと一緒に払うのが当たり前だという返事を頂いたのですが、そういうことで契約することにすごく疑問があります。もうちょっと違う言い方があったのではないかと思うのです。では私たちが今度、守る会ではなく、今度は新法人と契約しますよね。そのときにそういう態度で来られるということがすごく怖さがあるのですが、その辺はどういう形になるのですか。

議長：そのときの経緯は、たぶん代表が一番ご存じなのか。

佐伯：はい。清算人が数年前に一時金の形で徴収しようとしたというのはあったのですが、だいぶ反発もあって、引込めたというのが一つでしょうか。あと最近の説明会では、今後、新法人をつくるに当たって管理費を徴収しませんという話が出ているということです。

おっしゃるとおり、当然に向こうが徴収できるという立場で来るのは間違っているというのが今日の説明のとおりです。計算上はたぶん、年次管理料は21年分とか31年分を最初に永代管理料として徴収するという形と毎年払っていく形、2つのどちらかを選べますという形だったと思います。実際にそれが21年分で全部使われていたのかは当然分らないし、そんなことは聞けませんが、永遠と聞いている方が多いと思うので、そういうことからすると説明と全然違うじゃないかということで、その態度はおかしいと思います。だから向こうが横柄な態度をとるのは非常にわれわれからしてもおかしいことだと思います。

ただ、それと別に今後どうするかというのは考えなければいけないので、まず向こうの態度がそういう形で来る怖さについては、われわれも協議会で常に清算人が接していますので、そういう横柄な態度で説明会に臨まないようにということは、今日の結果を踏まえて改めて伝えておきたいと思います。

議長：よろしいでしょうか。

いろいろご質問やご意見がございますが、まだまだご意見がある方はいらっしゃるかと思いますが、次の議題もまだ控えておりますので、このあたりで議案書の1、令和6年活動報告について、皆さんにお諮りしたいと思います。